

# Asia Indicators

発表日: 2025年1月10日(金)

台湾・輸出は引き続き半導体がけん引役に(Asia Weekly(1/6~1/10))

～オーストラリアも輸出の底入れが確認され、ブラックフライデーが家計消費を後押し～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

| 発表日     | 指標、イベントなど               | 結果     | コンセンサス | 前回     |
|---------|-------------------------|--------|--------|--------|
| 1/6(月)  | (タイ)12月消費者物価(前年比)       | +1.23% | +1.47% | +0.95% |
| 1/7(火)  | (フィリピン)12月消費者物価(前年比)    | +2.9%  | +2.6%  | +2.5%  |
|         | (台湾)12月消費者物価(前年比)       | +2.1%  | +2.1%  | +2.1%  |
| 1/8(水)  | (オーストラリア)11月消費者物価(前年比)  | +2.3%  | +2.2%  | +2.1%  |
| 1/9(木)  | (オーストラリア)11月輸出(前月比・季調済) | +4.8%  | --     | +3.5%  |
|         | 11月輸入(前月比・季調済)          | +1.7%  | --     | ▲0.0%  |
|         | 11月小売売上高(前月比・季調済)       | +0.8%  | +1.0%  | +0.5%  |
|         | (中国)12月消費者物価(前年比)       | +0.1%  | +0.1%  | +0.2%  |
|         | 12月生産者物価(前年比)           | ▲2.3%  | ▲2.4%  | ▲2.5%  |
|         | (台湾)12月輸出(前年比)          | +9.2%  | +6.5%  | +9.7%  |
|         | 12月輸入(前年比)              | +30.4% | +15.1% | +19.8% |
| 1/10(金) | (マレーシア)11月鉱工業生産(前年比)    | +3.6%  | +2.6%  | +2.0%  |

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

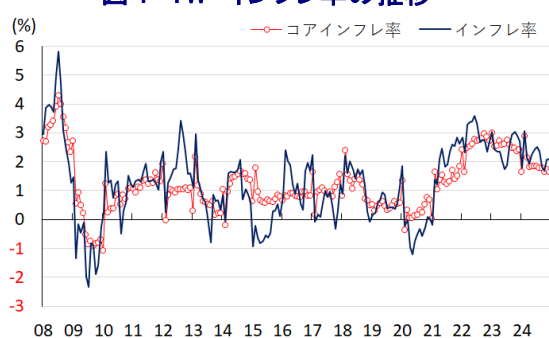
### [台湾]～半導体などを中心に輸出は底入れが続くなか、輸出の堅調さが輸入を押し上げる展開が続く～

7日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+2.1%)から2ヶ月連続で同じ伸びで推移している。前月比は▲0.02%と前月(同+0.10%)から9ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格は落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.65%となり、前月(同+1.73%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.08%と前月(同▲0.03%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の落ち着きを反映して輸送コストは落ち着いた推移をみせる一方、国際金融市場における米ドル高の再燃に伴う通貨台湾ドル安を受けた輸入物価の押し上げにより幅広く財価格が上昇する動きをみせているほか、サービス物価も上昇傾向を強めるなど、幅広くインフレ圧力がくすぶる動きが確認されている。

9日に発表された12月の輸出額は前年同月比+9.2%となり、前月(同+9.7%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+5.6%と前月(同+0.8%)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出材である半導体をはじめとする電子部品関連で堅調な動きがみられるほか、化学製品や金属製品など素材・部材関連の輸出も同様

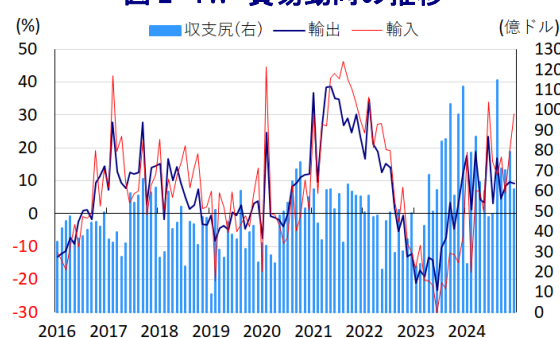
に堅調な動きをみせるとともに、鉱物資源関連など幅広い分野で輸出が底入れの動きを強めている様子がうかがえる。国・地域別でも、日本向けは下振れする動きをみせるとともに、欧州向けも力強さを欠く動きをみせる一方、最大の輸出相手である中国本土向けに底堅さがうかがえるほか、米国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+30.4%となり、前月（同+19.8%）から伸びが加速している。前月比も+13.0%と前月（同▲0.9%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して機械製品関連の輸入は旺盛な推移をみせているほか、化学製品や金属製品など素材・部材関連の輸入も堅調な動きをみせるなど、幅広く輸入が底入れしている。結果、貿易収支は+60.75億ドルと前月（+79.24億ドル）から黒字幅は縮小している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移



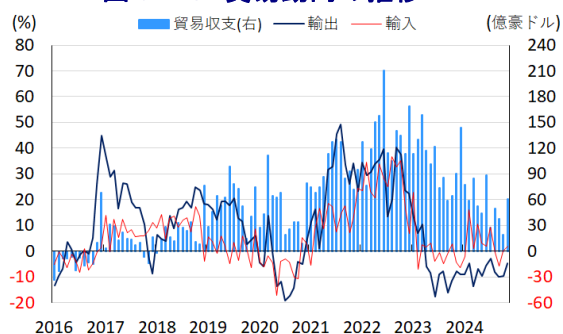
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [オーストラリア]～輸出は底入れするなか、ブラックフライデーセール影響の影響で家計消費も押し上げられる～

9日に発表された11月の輸出額（季節調整値）は前月比+4.8%となり、前月（同+3.5%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちが続いた流れが変化している。財別では、機械製品関連や化学製品関連の輸出は力強さを欠く動きをみせる一方、鉱物資源関連や原油・天然ガス関連のほか、食料品関連などの堅調さが輸出全体を押し上げている。国・地域別でも、ASEAN向けは下振れするとともに、米国向けやEU向けも力強さを欠く動きをみせているものの、最大の輸出相手である中国向けは底堅い動きをみせているほか、日本向けが大きく底入れする動きをみせている。一方の輸入額は前月比+1.7%となり、前月（同▲0.0%）から5ヶ月ぶりの拡大に転じており、頭打ちの動きが続いた流れに変化の兆しがうかがえる。幅広い財で輸入額は下振れする動きがみられるものの、原油や石油製品、天然ガス関連の輸入が大きく押し上げられていることが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+60.27億豪ドルと前月（+18.97億豪ドル）から黒字幅が拡大している。

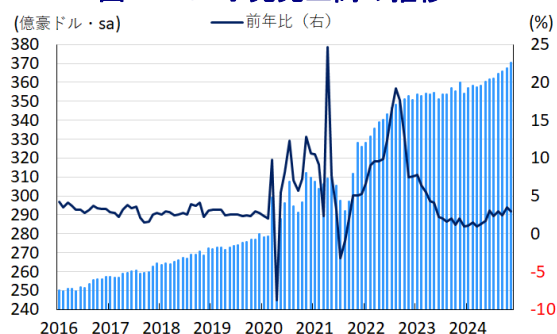
また、同日に発表された11月の小売売上高（季節調整値）は前月比+0.8%となり、前月（同+0.5%）から8ヶ月連続で拡大するとともに、拡大ペースは10ヶ月ぶりとなる高い伸びとなっている。昨年7月からの今年度（2024-25年度）から始まった電力料金に対する補助金政策を受けたインフレ鈍化に加え、所得税減税も重なる形で足下の家計消費は堅調な推移をみせていることに加え、11月はいわゆるブラックフライデーセールの影響も重なる形で幅広い分野で消費が活発化していることが影響している。地域別でも、すべての州・特別区で拡大の動きが確認されており、クリスマス需要が前倒しされたことも影響している可能性があると考えられる。

図3 AU 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 AU 小売売上高の推移

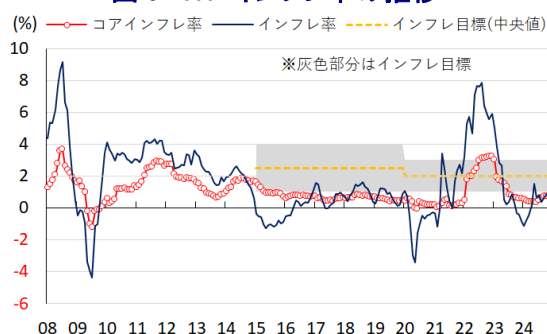


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

**[タイ]～生活必需品で物価に下押し圧力が掛かるとともに、全般的にインフレ圧力が後退する動きが続く～**

6日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+1.23%となり、前月(同+0.95%)から伸びが加速して7ヶ月ぶりに中銀が定めるインフレ目標(2±1%)の範囲内に収まっている。ただし、前月比は▲0.18%と4ヶ月連続で下落するとともに、前月(同▲0.13%)から下落ペースが加速するなど頭打ちの動きを強めている。原油をはじめとする国際商品市況の上値が抑えられる展開が続いていることを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も下落基調が続くなど、生活必需品で物価に下押し圧力が掛かっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.79%となり、前月(同+0.80%)からわずかに伸びが鈍化するとともに、18ヶ月連続で中銀目標を下回る推移をみせている。前月比は+0.05%と上昇するも前月(同+0.10%)からそのペースは鈍化しており、エネルギー価格の落ち着きを反映して輸送コストの上昇ペースは鈍化している一方、国際金融市場における米ドル高を受けた通貨バツ安に伴う輸入物価の押し上げ懸念はくすぶるものの、幅広く財価格は落ち着いた動きをみせているほか、サービス物価も鈍化傾向を強めるなど、全般的に物価は落ち着いた推移をみせている。

図5 TH インフレ率の推移



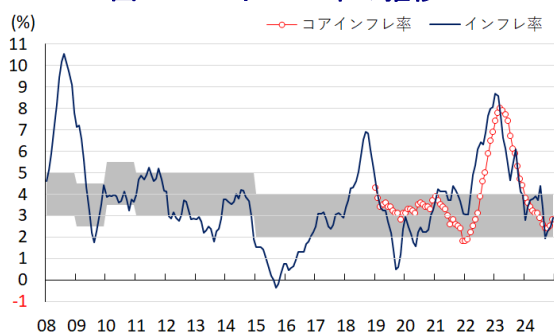
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

**[フィリピン]～生活必需品を中心とする物価上昇に加え、通貨ペソ安もインフレ圧力を促す動きがみられる～**

7日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月(同+2.5%)から加速して4ヶ月ぶりの伸びとなるも、引き続き中銀の定めるインフレ目標(2～4%)の範囲内で推移している。前月比も+0.55%と前月(同+0.40%)から上昇ペースが加速しており、国際原油価格は上値の重い推移をみせているものの、エネルギー価格が上昇に転じる動きをみせているほか、生鮮品をはじめとする

食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.8%と前月（同+2.5%）から加速して5ヶ月ぶりの伸びとなっているものの、インフレ率同様に中銀目標の域内で推移している。前月比も+0.32%と前月（同+0.32%）と2ヶ月連続で同じペースでの上昇しており、エネルギー価格の上昇を受けて輸送コストが押し上げられるとともに、国際金融市場における米ドル高の再燃に伴う通貨ペソ安を受けた輸入物価の押し上げも重なり、幅広く財価格が上昇しているほか、サービス物価も上昇する動きが確認されるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

図6 PH インフレ率の推移

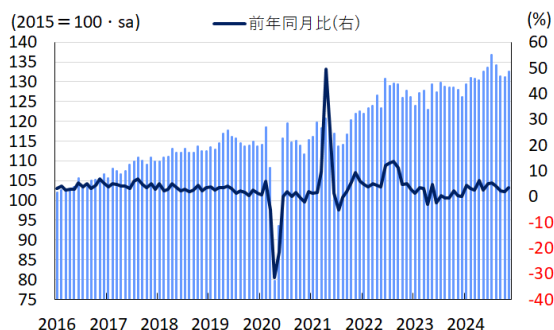


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

#### [マレーシア]～電子部品関連で生産拡大も、その他の製造業や鉱業部門で生産下振れなど跛行色は拡大～

10日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+3.6%となり、前月（同+2.0%）から伸びが加速している。前月比も+1.03%と前月（同▲0.11%）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちが続いた流れに変化の兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど大きく流れを変化するには至っていない。分野別では、比較的堅調な動きをみせてきた原油や天然ガスなど鉱業部門の生産が下振れしている一方、弱含む動きをみせてきた製造業の生産が拡大に転じるなど、両者の間で対照的な動きをみせている。製造業のなかでは、半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などで生産が拡大する動きが確認されており、輸出財を中心とする生産押し上げの動きが影響している一方、自動車などの輸送用機械関連や金属関連、化学製品関連の生産は力強さを欠くなど、分野ごとの跛行色が鮮明になる動きもみられる。

図7 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。